

葛巻高校郷土芸能部

2年ぶりにまちなかで神楽披露

6月20日、まちなか新緑まつりの会場で、郷土芸能部が葛巻神楽を披露しました。新型コロナウイルス感染症の影響で町内のイベントが自粛されていたため、郷土芸能部が町内で神楽を披露するのは2年ぶりです。1、2年生は緊張の面持ちで初めて町民の前で権現舞を披露しました。部長の大上和香奈さん（3年）は「町民の皆さんの前で舞うことができて良かった。コロナの状況はこれからも続くかもしれないが、少しでも多くの人に見てもらい、後輩たちにより良い神楽にしていって欲しい」と充実した表情で話していました。郷土芸能部は、10月に北上市で開催予定の県高等学校総合文化祭郷土芸能発表会に向け、今後も練習を重ねていきます。



迫力ある権現舞を披露する部長の大上和香奈さん



舞を盛り上げるお囃子



「頭かじり」で観客の厄除け



見せ場のひとつ、側転も軽やかに

SDGsで地域振興を学ぶ

6月15日、総合的な探求の授業で1～2年生106人がSDGs（持続可能な開発目標）カードゲームを通じて地域振興について学びました。

生徒たちはグループに分かれ、様々なプロジェクトカードをやり取りしながら、仮想の町づくりを実践。経済を活性化させると一方で環境問題が生じたり、他のグループと連携が不足するとプロジェクトの効果が発揮されず、地域経済が衰退したり、人口が減少する結果になるなど、地域社会の仕組みを学びました。

参加した菅野貴大さん（2年）は「自分たちのチームの目標を達成するのは難しかったが、ゲームを通じて社会や経済の仕組みが分かった。SDGsの17の目標の中では貧困問題に興味があるので、今後も勉強していきたい」と語り、持続可能な地域づくりへの理解を深めていました。



プロジェクトカードを見比べて話し合う生徒たち



ファシリテーターからアドバイスを受ける様子

町に縁の山村留学生増える

平成27年度からスタートした山村留学は7年目を迎え、令和3年度までに46名の生徒を受け入れ、葛巻高校の学級数の維持や、地域の活性化に大きな効果を発揮しています。近年は、町に祖父母などの親族がいたり、くずまき高原牧場のスノーワンダーランドの参加経験があるなど、幼い頃から町の関わりがきっかけで入学した留学生も増えています。

幼少期から愛着育み親族も留学を後押し

宮城県出身の吉田侑芽さん（1年）は、母が葛巻高校の卒業生で、町内に祖父母がいます。「葛巻の自然が好きで、小さい時からいつかは住みたいと思っていました」と、幼い時から町の暮らしに憧れていたとのこと。テレビで葛巻高校郷土芸能部のニュースを見ていた時、母に「今すぐく

目がキラキラしてるよ」と言われたことをきっかけに、留学を真剣に考えるようになったそうです。

東京都出身の日向柚乙夏さん（1年）は、町内に住む叔母から留学制度を勧められました。「動物看護師が夢で、葛巻なら動物に触れる機会が多いのでは」と思い、入学を決めました」と語り、高校の敷地内で野生のリスを見たことや、酪農家の牛を見せてもらった時の感動を覚えてくれました。

時には離れて暮らす家族が恋しくなることもあるという二人ですが、町内に親戚がいる安心感と、何より仲間との寄宿舎生活が大きな支えであると言います。侑芽さんは「学校で孤立しないうかが心配でしたが、寄宿舎ですぐ友達ができました」と語り、柚乙夏さんは「ホームシックになっても友達がいるから立ち直れます」と笑顔を見せていました。

「葛巻町で高校生活を送りたい」と考える町に縁のある生徒たちが、今後も増えることが期待されます。



縁ある葛巻町で充実した高校生活を送る侑芽さん①と柚乙夏さん

くずまき山村留学 令和4年度入学生募集

町では、令和4年度に県立葛巻高等学校へ入学を希望するくずまき山村留学生を募集しています。

■募集定員

10人程度

■申込み対象者

- ①葛巻高校への入学を希望し、保護者の承諾を得られる者
- ②高校生としての自覚を持って規則などを守り、心身共に健康で自立した生活を送ることができる者

■申込書類

町ホームページから募集要項に記載している必要書類をダウンロードし、在学中学校長を通じて、郵送または持参により提出してください。

■申込期限

令和3年11月22日（月）まで（必着）

■親子説明会

【日時】 8月20日（金）～21日（土）

【場所】 県立葛巻高等学校ほか

【内容】 高校の授業や部活、関係施設の見学
在校生交流会 ほか

【対象】 くずまき山村留学を検討する中学3年生とその保護者（15組程度）

※参加希望の方は事前に下記問い合わせ先にお申し込みください。

教育委員会事務局こども教育課

☎66-2111内線272



ホームページ